



注目ポイント

- ✓先週は、米国の雇用統計ショックを受けて、世界的にリスクオフ(株安・債券高=金利低下)の流れになると身構えたものの、米国では株高・債券安の展開に。日本では金利が低下したものの、株式市場が堅調な展開となり、日経平均は一時、年初来高値を更新。現段階では、その不安は杞憂に終わった。もっとも、米国の労働市場に明確に黄色信号が点ったことは間違いなく、もはや米国が9月に利下げを再開するとの見方は既定路線になりつつある。
- ✓そのような状況下、今週最も注目が集まるのが12日に公表される米CPI(7月)。予想以上に弱い結果ならば、米利下げ観測を後押ししようが、逆に強かった場合には利下げ観測の後退から円安ドル高に振れやすいことに注意が必要か。また、ロシア・ウクライナ停戦に向けて、米ロ首脳会談(15日)が予定されており、ボラティルな展開となる可能性も。(門倉英司)

2025年8月4日 ~ 2025年8月11日

市場・指標			8月4日 ~ 8月11日		8月11日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	42,034	39,851	41,820	+1,021	+2.5%	
	米国	NYダウ(ドル)	44,498	43,724	43,975	+387	+0.9%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	24,392	23,522	24,081	+655	+2.8%	

市場・指標			8月4日 ~ 8月11日		8月11日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利(国債)	日本	10年(%)	1.505	1.465	1.485	-0.070	
	米国	10年(%)	4.29	4.18	4.28	+0.06	
	ドイツ	10年(%)	2.70	2.60	2.70	+0.02	

市場・指標			8月4日 ~ 8月11日		8月11日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		148.25	146.62	148.12	+0.72	
	ユーロ(円)		172.34	169.82	172.06	+1.27	
	豪ドル(円)		96.54	94.91	96.48	+1.07	

市場・指標			8月4日 ~ 8月11日		8月11日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リト(ポイント)	1,906	1,861	1,897	+29	+1.6%	
	米国	NY原油(ドル)	67.74	62.77	64.02	-3.3	-4.9%	
		NY金(ドル)	3,534	3,397	3,401	+2	+0.0%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。休日・休業の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年8月12日 ~ 2025年8月15日

株式

上伸後、もみ合いの展開か

日経平均
 【予想レンジ】 41,500 円 ~ 42,750 円

- 先週の日経平均は大幅に上昇。週初は米景気悪化懸念や円高進行から下落し、一時4万円割れの場面も。しかし、米利下げ観測や好決算銘柄への買いが日本株の支えとなり、日経平均は火曜から4日続伸し、週末には一時、年初来高値を更新した。不安定ながらも、投資家心理の改善も進み、株式市場は回復基調となった。
- 今週の日経平均は、上伸した後、もみ合いの展開か。祝日の11日に海外の先物市場では、日経平均が大幅高となっており、週初から高値を更新する展開が見込まれる。ただし、先週来の急伸の反動や、PERが急速に上昇し17倍を超える等、バリュエーション上の売り圧力が上値を抑えよう。7月第5週に、16週ぶりに売り越しに転じた海外投資家が先週(8月第1週)再度、買い越しとなったかを確認したい。



金利(国債)

やや上昇か

10年国債利回り
 【予想レンジ】 1.470 % ~ 1.520 %

- 先週の国内金利は大幅に低下。週初から米景気減速懸念を背景に、金利は大幅に低下。10年国債利回りは、一時1.465%と1か月ぶりの低水準を付けた。その後は、国債入札を無難に乗り切ったことが、債券の買い安心感になる一方、タカ派の内容と受け止められた日銀金融政策決定会合(7月)の「主な意見」が売り材料となり、方向感のないもみ合いが続いた。
- 今週の国内金利は、やや上昇する展開か。米CPI(12日)の結果が、予想以上に強かった場合には、国内金利にも上昇圧力がかかることが想定される。ただし、市場では日銀による年内の追加利上げを、ある程度織り込んでいることから、上昇余地は限定されよう。もっとも、今週は材料も参加者も少なく、動意のない展開となろう。



為替(米ドル)

ドル強含みのもみ合いか

米ドル/円
 【予想レンジ】 146.50 円 ~ 150.00 円

- 先週のドル円は、円安ドル高が進展。前週末の米雇用統計の弱い結果を受け、FRBの9月利下げ観測が強まったことがドル売り材料となった一方、世界的な株高がリスク選好を促したことが円売り材料に。また、米関税政策やFRB人事を巡る思惑も交錯し方向感を欠いた。円高&円安要因が拮抗しつつも、世界的なリスクオンの流れが上回り、円安ドル高基調で取引を終えた。
- 今週のドル円は、ドル強含みのもみ合いか。市場では、既に年内2回程度の米利下げを織り込んでいるとみられ、更に利下げ観測を確かなものとする材料に対しても、ドル安の余地は限定的となろう。逆に、注目される米CPI(12日)が予想以上に強かった場合には利下げ観測の後退から円安ドル高に振れやすいことに注意が必要か。

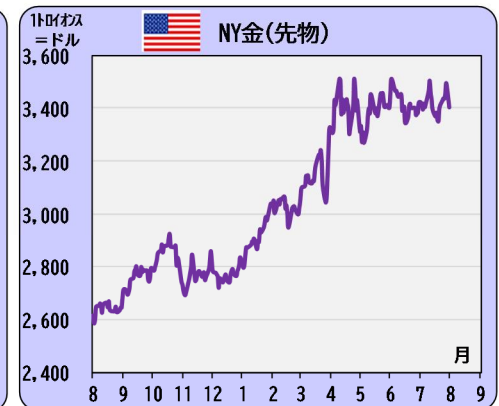
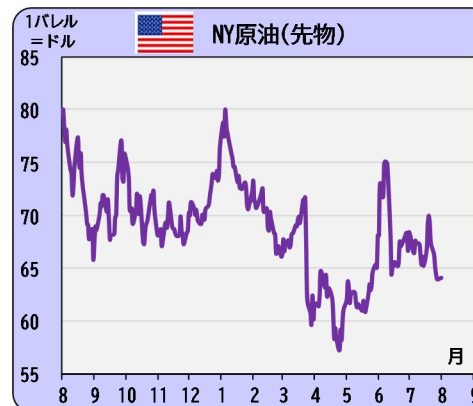
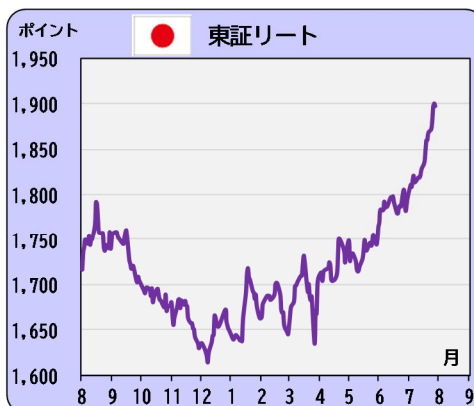
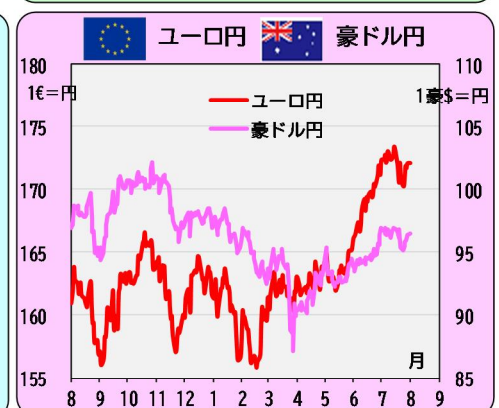
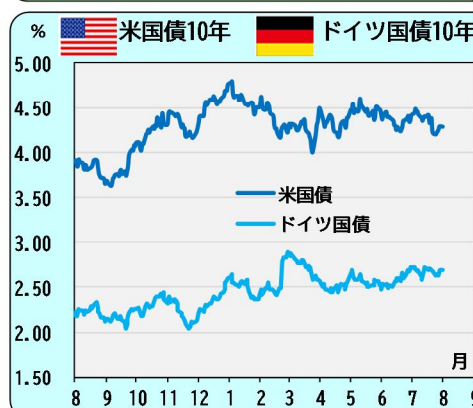
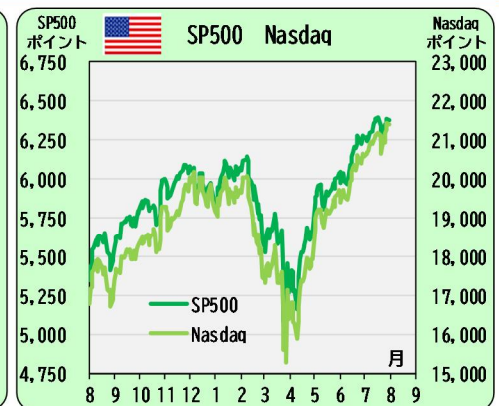


○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
8/11(月)	祝日(山の日)	
8/12(火)		米国: CPI(7月) 米国: 財政収支(7月)
8/13(水)	国債入札(5年) 国内企業物価指数(7月)	
8/14(木)		米国: PPI(7月)
8/15(金)	GDP(4~6月)一次速報値	米国: 小売売上高(7月) 米国: ミシガン大学消費者態度指数(8月)速報値

③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターミディエート(原油)

●ご留意事項

- 本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- 本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。